

食料廃棄1カ月で13万食

五輪組織委「発注管理努める」

東京五輪・パラリンピック組織委員会は27日、五輪開催期間を含む7月3日から8月3日までの1カ月間に、ボランティアやスタッフ向けに準備した弁当な

ど、約13万食が廃棄されたと発表した。五輪開会式では発注した弁当約1万食のうち、約4千食が処分され、食料の大量廃棄が問題視されていた。

組織委によると、約13万食は調査した20会場で用意した食料の約25%に当たる。発注量の管理などを改善し、7月30日～8月6日の廃棄率は約15%に抑えたと説明。五輪閉会式では、約6千食の発注に対し廃棄が約200食、パラ開会式は約6千食の発注に廃棄約100食だったという。

高谷正哲スポークスマンは「会場によっては余った食料がほぼ無い日もあり、改善傾向にある。完全にゼロにするのは難しいが、引き続き発注量の管理に取り組み」と話した。食品ロス削減の取り組みとして、消費期限が長いパンが残った場合は、生活困窮者や福祉施設に食材を無償配

布する「フードバンク」への提供を始めたことを公表。24日のパラ開会式から26日までに約90個を贈ったという。